

## 昼休み、短いですか？

### フリートーク開催！

1月13日(木)の放課後、スタバでフリートークが行われた。

フリートークとは、生徒に議論してほしいことがある際に、本部(三役)主催で不定期に開催され、生徒は自由に参加できる。今回は先生方も参加し、「須



円状になって議論しました

坂高校の昼休み延長」と「須坂高校の服装・頭髪」の2つをテーマに生徒25名(1・2年)と教員5名で議論が行われた。

まず、「須坂高校の昼休み延長」という議題が上がった経緯について説明する。それは、先生方から昼休みの時間が少し短すぎるのではないかと指摘があったからだ。そこで生徒会執行部役員会で議論をし、3つの執行部案をまとめた。3つの執行部案とは、A案(5月の時間を5分、授業間の10分休みを1分ずつ削り昼休みを10分延長)、B案(朝の登校時間を5分早め、5月の時間を5分又は清掃時間を5分削り昼休みを10分延長)、C案(現状のまま)である。この3つの執行部案に対して色々な人の意見を聞くべくフリートークが開催された。延長に賛成派の意見としては、「授業が延びてしまうと厳しい」「先生からの呼び出しや委員会の仕事があると昼食が食べられない」などがあつた。一方、反対派の意見は賛成派よりも多く、主に「今の時間割の方がわかりやすく、変える」と混乱する人が出る。「現状に不満を持っている生徒は少ない」と思っている。「登下校の時間が変わってしまうのなら現状のままが良い」「時間に余裕のある人もいるので、スマホをいじる時間が増えるだけになってしまう」という4つの意見が出た。こ

皆さん々と自分の意見を述べていました



先生側の意見を  
知る機会となりました



の議論を踏まえ、反対派の「今の時間割の方がわかりやすい」、「現状に不満を持っている生徒が少ない」という意見の影響が大きいとして、生徒会執行部としては、昼休みの延長はなしという見解を示した。

先生側から提案された昼休みの延長。生徒側は求めていないが、最終的にどのようなものになるのだろうか。今後の動向に注目したい。(文責…酒井)

1月20日(木)の放課後、社会科学研究室で「須坂アカデミー」が行われた。須坂アカデミーとは、参加者が指定された共通の本を読み、語り合うアカデミーである。部活動が休みの木曜日を使った冬季限定開催で、昨年の冬に立ち上げられた。

第6回となる今回は、1年生1人・2年生4人・先生1人の参加者で、ジョン・スチュアート・ミルの「自由論」(1859年)を読んだ。この本は、「他人に害を与えなければ何をしても良く、政府は干渉してはならない」と初めて自由を定式化し、自由論の古典となつた。この本を読み、ミルはどのような未来を見つめていたのか、「自由に生きる」とはどういうことなのか「須坂高校の自由」と合わせて語り合つた。

ミルは「他者の功利を損なわなければ自己の幸福を追求していい」と主張した。しかしこれを須坂高校の自由と照らし合わせるのと「別に髪を染めることで自分以外の誰かに害があるわけではないか？」という意見が出たが、そ

# 150年前から学ぶ「自由」

れに対して「例えば電車に乗っていた髪を染めている須坂高校生が地域の人に見られた時にあまりいい印象を与えなくて、それがきっかけで高校全体の印象が下がってしまったら、それは他人に害を与えてしまうことにならないのではないか」という反論が出た。このやりとりに対し、「一つ行動するのにそこまで気を回さないといけないと考えると少し気疲れしてしまうような気がしたが、ある意味こういった考えこそ須坂高校における自由の本質なのではないかと感じました」と参加した2年生は感想を述べた。昔に書かれた「自由」でも今の須坂高校の「自由」に繋がることがあるということを発見できた回になったのではないだろうか。

今回はルソーの「社会契約論」を読み、語り合う予定だ。クラブ活動が休みのこの機会に、多様な意見を知り今の社会について一緒に考えてみてはどうだろうか。希望すれば誰でも自由に参加できる須坂アカデミー。詳細は社会科学の倉科先生まで。(文責…片桐・酒井)